



湯沢市ビジネス支援センター

ゆざわ - Biz

湯沢市ビジネス支援センター

2023年

4年目活動報告書

目次

年間相談件数／リピート率／相談対応の満足度	1
相談内容／相談で事業に前向きになれたか／業種別割合／IT部門の支援の強化	2
センターの運営体制	3
セミナー実施／メディア掲載／講演活動	4
ビズの取り組み／開業に向けた伴走支援	5
相談事例	
新商品・新サービス開発	6
事例(1)製造工程で出る「切れ端」をアップサイクル稲庭うどんエール	7
事例(2)新規事業に「ストーリー性」を持たせる キッチンカー事業 ゆきだるま号	8
事例(3)雪中貯蔵品を首都圏に 有名レストランでの採用や百貨店での販売会	9
事例(4)地域を越えた連携商品 気仙沼市の和菓子店と「和菓子に合う」コーヒー	10

年間相談件数

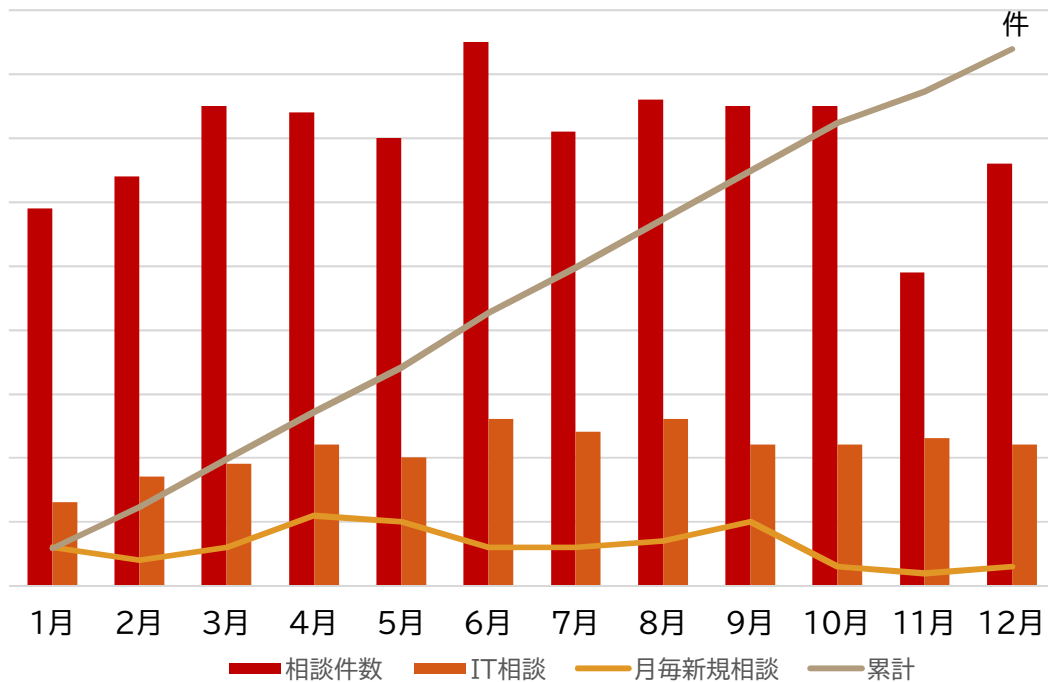
839件

2023年は、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、経済活動の本格的な回復が見込まれるなか、長期化する物価高騰の影響により依然として厳しい経営環境が続きました。そうした中、ゆざわ-Bizへの相談件数は毎月70件程度で推移し、年間の相談件数は839件となりました。

月次件数

月次相談件数と累計数

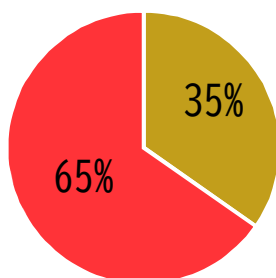
年間累計
累計数
件



リピート率

65%

2020年1月の開設以来、初回相談から継続的に2回以上利用している事業者の割合(リピート率)は、約65%となります。



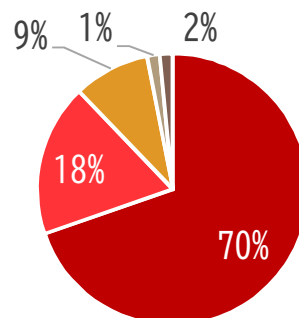
相談回数

- 1回
- 2回以上

相談対応の満足度

88%

相談に来る事業者へのアンケート調査結果では、70%が「満足」、18%が「やや満足」と回答。全体の約88%が対応に満足した結果となりました。



- 満足
- やや満足
- どちらとも言えない
- やや不満足
- 不満足

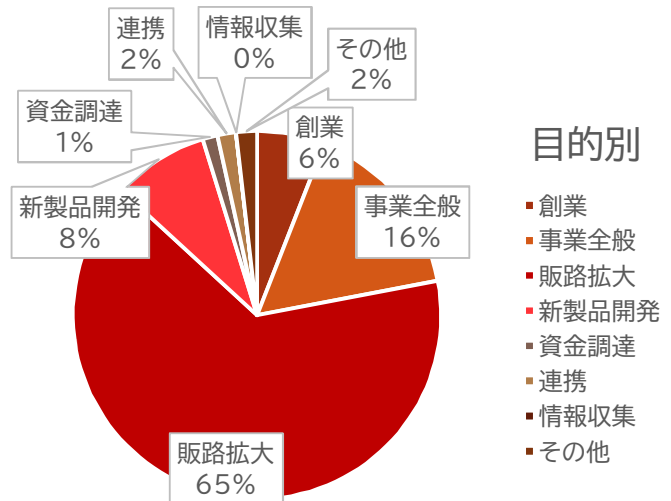
相談内容

販路拡大

事業全般

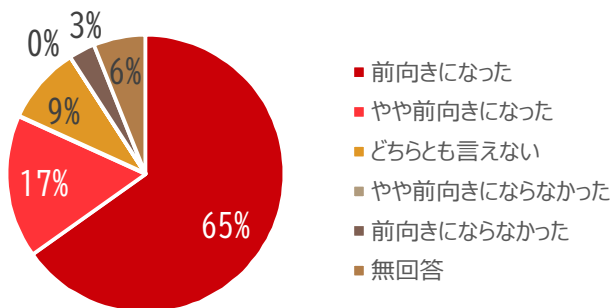
65% 16%

相談に来た目的としては、全体の65%の事業者が「販路拡大」や「売上アップ」といった内容でした。そのほか、事業全般に関する相談も、全体の16%を占めました。



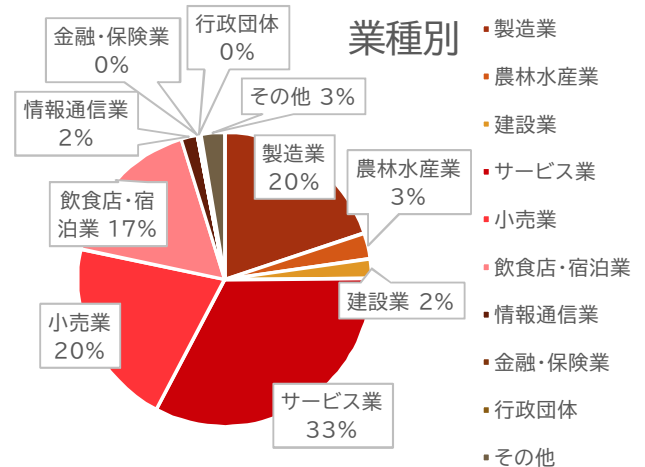
相談で事業に前向きになれたか

82%



業種別割合

相談に来た業種は、サービス業が33%で、製造業(20%)、小売業(20%)と続きました。



IT部門の支援の強化



新型コロナウイルスの影響により、全国的にECサイトの販売が活発化したことで、SNSの活用が重要となることから、IT相談部門の強化を図るべくアドバイザーを増員しました。飛塚ITアドバイザーはこれまでと同様にWEBマーケティング面の支援を行い、新しく就任した笠松ITアドバイザーは、主にSNSやWEBサイトのデザイン面での支援を行っています。ITアドバイザーの増員により、SNSによる情報発信や販促物作成の支援が強化され、支援のクオリティーを高めることができました。

センターの運営体制



センター長(常勤) 藤田敬太

一橋大学経済学部卒業後、読売新聞東京本社で記者として約10年勤務。その後専門商社の役員や産業用カメラ技術商社の代表取締役として活動し、新規事業の創出から、財務管理や人事、取引先との交渉など多方面で会社の経営を行った。

2015年に地方ゼネコンのベトナムでの法人設立に携わり、現地法人長として、新規事業の開発を同国で行った。同国では、現地の金融機関であるVietnam Maritime Commercial Joint Stock Bankにも参画し、外国直接投資部の顧問として、外資企業や金融機関の誘致戦略を日本企業の視点からアドバイスを行った。

2019年10月1日 湯沢市ビジネス支援センター ゆざわ-Biz センター長就任。



ITアドバイザー(毎週水曜日) 飛塚嗣公

T-Solutions株式会社代表取締役

福島県出身、山形県在住。多店舗展開するスーパーの精肉部に勤務し、店舗マネージャーとしてマネジメント及び仕入れ、加工業務に従事。その後、IT関連企業にて営業兼エンジニアとしてサーバー、ネットワーク構築業務に従事したのち、大手SIerのシステムエンジニアとして主に鉄道、航空といった輸送系の社会インフラの構築を行う。

「新しい働き方と未来を創るしごと」をするために2015年8月に起業。T-Solutions株式会社を設立し、テレワークを推進するサービスの展開や、在宅ワーカーを活用した業務請負事業を行っているほか、キッズプログラミング教室事業も行っている。

2020年7月 湯沢市ビジネス支援センターゆざわ-Biz ITアドバイザー就任。



ITアドバイザー(毎月第一・第三木曜日)

笠松 宏子

宮城県仙台市在住。

東京で中学受験の受付事務を行う会社を退職後、仙台にて行政関係の事務職として勤務。中小企業支援の部署にて、Webメディアの運用やイベント開催に従事する。

その後、東京・仙台を拠点とするデジタル系の広告制作会社にて、アカウントディレクターとしてWebサイトの制作・開発に携わる。

現在はフリーランスとして独立し、Webメディアを活用した執筆、Web制作、SNSの運用、PR業務などを中心に活動中。

宣伝会議 編集・ライター講座修了

ブランドマネージャー2級

SNSリスクマネジメント認定

BASE partners

一般社団法人ワンエムイノベーション運営メンバー

2023年4月 湯沢市ビジネス支援センターゆざわ-Biz ITアドバイザー就任。

セミナー実施

2023年、ゆざわ-Bizでは講師を招き、事業者を対象に「無料セミナー」を計4回実施しました。

インボイス制度

ChatGPT

BASEで始めるEC販売

睡眠改善

セミナーのテーマは、話題のChatGPTや、新型コロナウイルスの影響により急速に普及したEC販売に関することなど、世のトレンドを捉えつつ多岐に渡るテーマで開催し、中には40名を超える参加者を集めた回もあり、好評でした。

また、今年開催したセミナーも昨年に引き続き、東北のビズモデル型支援拠点である山形市売上増進支援センター(Y-biz)や気仙沼ビジネスサポートセンター(気仙沼ビズ)の相談事業者にもセミナーを開放しました。

メディア掲載

相談を通じて完成した新サービスや商品などの情報を、相談事業者の希望に応じて、ゆざわ-Biz経由で報道各社にプレスリリースとして配信しています。2023年も前年に引き続き、ゆざわ-Bizの支援事例が多く新聞やテレビで取り上げられ、注目を浴びました。



2023年2月9日 河北新報

講演活動

2023年は、藤田センター長が講師として招かれる機会が11回ありました。商工団体、小・中学校等、ロータリークラブなど様々な分野で講演を行いました。そのテーマも、地域活性化に向けた施策についてなど、多方面に及びました。



湯沢雄勝小中学校事務研究会での講演の様子 (2023年2月10日)

ビズの取り組み

情報発信サポート 通称「ビズラック」



ゆざわ-Bizでは、相談に来る事業者の情報発信の手段として、チラシの作成をサポートしています。しかし、事業者からは「チラシを作ってもどこに置けばいいのかわからない」という声も多いため、2020年12月から、市内の「人が集まる」事業所の協力を得て、パンフレットラックの設置を始めました。当初は5か所に設置されていましたが、市内外の事業所の協力により、現在では9か所に増え、相談事業者の情報発信の場が拡大しています。

【設置箇所】

道の駅おがち「小町の郷」 秋田銀行湯沢支店

ニュー千寿苑 北都銀行湯沢支店

イオンスーパーセンター湯沢店 湯沢郵便局

湯沢グランドホテル(2023年8月から) 雄勝中央病院(2023年2月から)

スーパーモールラッキー(横手市)

開業に向けた伴走支援

2023年は、開業件数が16件でゆざわ-Biz開設後最も多い1年でした。湯沢市では、ゆざわ-Bizの伴走支援だけでなく、開業の初期費用を補助する「創業スタートアップ補助金」や、商店街に出店する際の家賃・改装費を補助する「空き店舗対策事業(空き店舗補助金)」により、開業する方を応援しています。



若い人たちが気軽に服をリーズナブルに購入できる場所がないと、開業したmade in TIGERさん。創業スタートアップ補助金を活用し、開業に向けて必要な備品・広告費を調達し、令和5年11月1日付でオープンしました。



県内では若い看護師のなり手が少なく、看護師の高齢化が社会問題となっています。その中で若い看護師にも訪問看護の分野を広めたいとの思いから、秋田県南で初の若手看護師が主体となり訪問看護業を開業した合同会社CHILさん(訪問看護ステーションアイケアプラス)。空き店舗補助金を活用し、サンロード商店街に事務所を設立し、令和5年10月16日付で事業をスタートしました。

新商品
新サービス
開発

2022年も、ゆざわ-Bizの相談から新たな商品やサービスが誕生しました。ゆざわ-Bizでは、事業者が持つ「強み」を磨き、消費トレンドに沿った新商品や新サービスをリリースすることや実際に販売をしたりマーケティングをしたりする際のお手伝いしています。



大判焼きいぶりがっこツナマヨ
お食事処 小町園

食事処小町園では、横堀エリアで地元の人たちに親しまれてきた大判焼きの機械を引き継いで、販売することに。あんこやカスタードといった当時人気だった具のほか、「地元の食材を使った新たな味の大判焼きを」と、ツナとマヨネーズにいぶりがっこを入れた新たな具を開発。



スタンドグラス仏壇
沓良仏壇漆器店

仏壇は高さ約40センチで幅約25センチ。仏間のない現代の家で、筆筒の上など小さいスペースにも置けるような形になっており、壁掛けにも対応できる「新たなカタチ」の仏壇を商品化。秋田市のスタンドグラス作家・菊地真梨奈さんによる作品を組み込み、インテリアとしても空間にマッチするようなデザインに設計。



とん八焼き
七輪網焼き「憲」

湯沢駅の近くの七輪網焼き「憲」では、約50年前に湯沢市の繁華街で人気店で今はもうない「とん八」という店の人気メニューをオーナーが当時の記憶を頼りに復活。常連客のほか、新規のお客さんにも好評で、店の看板メニューに。



口内年齢測定と「口腔ドック」
湯沢歯科クリニック

ゆざわ-Bizの相談から生まれた、東北初のサービス。普段あまり気にしない「口の健康状態や老化」に見える化するため、口の機能を細かく検査する「口腔ドック」をはじめ、検査結果から患者の口の機能の目安となる「口腔年齢」を算出するサービスを設計。

事例(1)

製造工程で出る「切れ端」をアップサイクル 稲庭うどんエール

事業者名:稲庭うどん小川

業 種:食品製造業

相談内容

稲庭うどんの製造工程では、長さをきれいにそろえるため、約2~3センチの切れ端がどうしても出てしまいます。「麺がゆ」など有効活用した商品もこれまでありましたが、正規品としては販売できないため、どうしても有償で廃棄せざるをえない状況で、この「切れ端を有効活用したい」と相談に訪れました。



提案内容

ゆざわ-Bizではまず、切れ端の長さが短く、かむ力の弱くなった高齢者に最適だとして、高齢者福祉施設への寄贈を提案。ゆざわ-Bizに相談に訪れる横手市の高齢者福祉施設への寄贈が決まりました。さらに、切れ端を使った「アップサイクル商品」として、切れ端を副原料に発泡酒を開発することを提案しました。提案した理由としては①意外性のあるアップサイクル商品をつくることで、消費者に対して稲庭うどん小川を身近に感じてもらう②稲庭うどんを使って製造したお土産品が湯沢市にはないことという2点がありました。羽後町でビールを醸造する羽後麦酒をつなぎ、半年以上かけて稲庭うどんの切れ端を副原料にした発泡酒が完成しました。



結果

発売直後から「意外性のあるアップサイクル商品」として、全国テレビ放送にも登場し、注目を集めました。初回製造した300本は、道の駅や地元のスーパーなどで即完売。2回目の製造を行いました。また、「新東北みやげコンテスト」ではアイデア特別賞を受賞したほか、一連の活動が評価され、秋田県が表彰する「あきたSDGsアワード2023」も受賞しました。

事例(2)

新規事業に「ストーリー性」を持たせる 惣菜販売キッチンカー事業 ゆきだるま号

事業者名:佐藤縫製

テーマ:新規事業の創出

相談内容

佐藤縫製の黒沢理紗さんが、新事業として「キッチンカー事業を立ち上げて惣菜をいろいろなところで提供したい」との相談に訪れました。もともと同社は食品関連の事業は行っておらず、全くの新規事業で、当時検討していた補助金の取得も視野に、「キッチンカー事業をはじめるとあって、事業内容を少し磨き上げたい」との要望でした。



提案内容

ゆざわ-Bizでまず、事業や会社についての話を掘り下げていくと、「佐藤縫製さんならではの優位性」を利用した事業であることが判明していきます。最初の特徴は、約7割の社員の方が兼業農家であるという点でした。兼業農家の方々が作る野菜で規格外となり、販売できないものを「積極的に会社で買い上げて惣菜の原材料にしましょう」と提案をしました。食品のロスの問題も防げるほか、社員の方々にとっては、会社が買い上げることにより所得向上につながる可能性もあります。また、稲川や皆瀬地区は公共の交通機関による交通の便が良くなく、いわゆる「買い物難民」と呼ばれる人たちも多くいます。こうした地域では、佐藤縫製のキッチンカー事業は、特有の「社会課題」も解決するいい手段になるとの「社会的な意義」を持たせました。



結果

強みや特徴を洗い出して、ストーリーを整理したことで、事業としての強みのほか、「地域課題解決」「社員の働き方改革」「SDGs」というキーワードが組み合わさり、通常のキッチンカー事業とは異なる事業に変化を遂げました。無事補助金の活用もでき、事業開始時には多くのマスメディアが取材に訪れ、「うちにも来てほしい」と販売を望む会社からの問い合わせも相次ぎました。

事例(3)

湯沢市が生み出す雪中貯蔵品を首都圏に
有名レストランでの採用や百貨店での販売会

事業者名:秋田・湯沢雪中貯蔵協会

テーマ:首都圏をはじめとした全国での販売

設立の経緯

令和3年豪雪の際、若手事業者が集まって「地域の厄介者とされている雪を使ってお金を生み出す取り組みがしたい」との相談があり、古くから市内で冬の期間の貯蔵方法として親しまれてきた「雪中貯蔵」を使って、「雪中貯蔵品による地域ブランディング」を事業者に提案し、「秋田・湯沢雪中貯蔵協会」が結成されました。



取り組みの内容

活動1年目、2年目と徐々に雪中貯蔵に取り組む活動にスポットがあたりはじめると、商品の販売も年々増えていきました。3年目の2022-2023年シーズンは、酒造メーカーや麴店、珈琲豆販売店など様々な業種約10社が参加。雪中貯蔵をするために必要な「雪室」を事業者側が整備し、これまでの実績をもとに、首都圏などでの販売を試みました。

首都圏をはじめとした拡販の成果

2022年シーズンに東京のテレビ局の報道番組に特集されたことから、首都圏でも湯沢市の雪中貯蔵商品は注目を集め、2023年シーズンには、東京・日本橋にある高級イタリアレストラン「チエステAS0代官山日本橋店」のスペシャルメニューで雪中貯蔵商品が食材として採用されました。また、JR山手線御徒町駅の百貨店「松坂屋上野店」では、新幹線を使った物流によって朝に雪室から出したばかりの雪中貯蔵された果物や野菜の販売会が開催され、首都圏に住む多くの人たちが手に取り、商品を購入していきました。

事例(4)

地域を越えた連携商品 「和菓子に合う」コーヒー

事業者名:SUNNY COFFE ROASTERY(湯沢市)
株式会社紅梅(宮城県気仙沼市)
業 種:焙煎珈琲製造・和菓子店

相談内容

湯沢ナショナル(スミタニ電機)さんでは約3年前から新規事業として、自社でコーヒー豆の焙煎を行い、販売をしています。全国的にも競合が多い焙煎珈琲販売店として、差別化する商品をゆざわ-Bizと一緒に模索しており、これまでに雪室で貯蔵した「雪中貯蔵コーヒー」など様々な焙煎珈琲を販売しています。



提案内容

ゆざわ-Bizが提案したのは「和菓子に合うコーヒー」でした。近年は「チーズに合うワイン」などペアリング商品が流行しています。コーヒーでは「チョコレートに合うコーヒー」など一部商品化されていますが、「和菓子に合うコーヒー」はまだありませんでした。一般的なコーヒーと少し離れたイメージですが、コーヒーと一緒に和菓子を食べている人が多いことや、年齢層が高い人たちにもコーヒーをもっと身近に感じてほしいとの想いで商品開発の提案をしました。商品化にあたっては、同じ「Biz型支援モデル」を採用している宮城県気仙沼市の「気仙沼ビジネスサポートセンター(気仙沼Biz)」の相談者で全国的にも有名な老舗和菓子屋「紅梅」と連携し、監修してもらいました。

気仙沼紅梅での売り出し



結果

2023年のホワイトデーに合わせて「和菓子に合うコーヒー」を紅梅の本店で販売を始めました。「和菓子屋で羊羹にペアリングしたコーヒーが売っている」という噂は気仙沼市内でも広がり、現在はイベントだけでなく、平時にも購入していくお客さんが多くいます。



湯沢市ビジネス支援センター

ゆざわ-Biz

ゆざわ-Bizでは毎日情報発信中です！



Facebookにぜひ
「いいね！」を

ホームページ
サポートブログで
相談者情報を
発信中！



湯沢市ビジネス支援センター 4年目活動報告書 2024年4月

作成：

湯沢市ビジネス支援センター
〒012-0841 湯沢市大町2-1-60
TEL:0183-56-7117
E-mail:info@yuzawa-biz.jp

湯沢市産業振興部商工課商工労政班
〒012-8501 湯沢市佐竹町1-1
TEL:0183-55-8186
E-mail:shoko-rosei-gr@city.yuzawa.lg.jp